

平成30年度に建設工事で発生した事故事例（架空物損傷事故）

【事故概要】

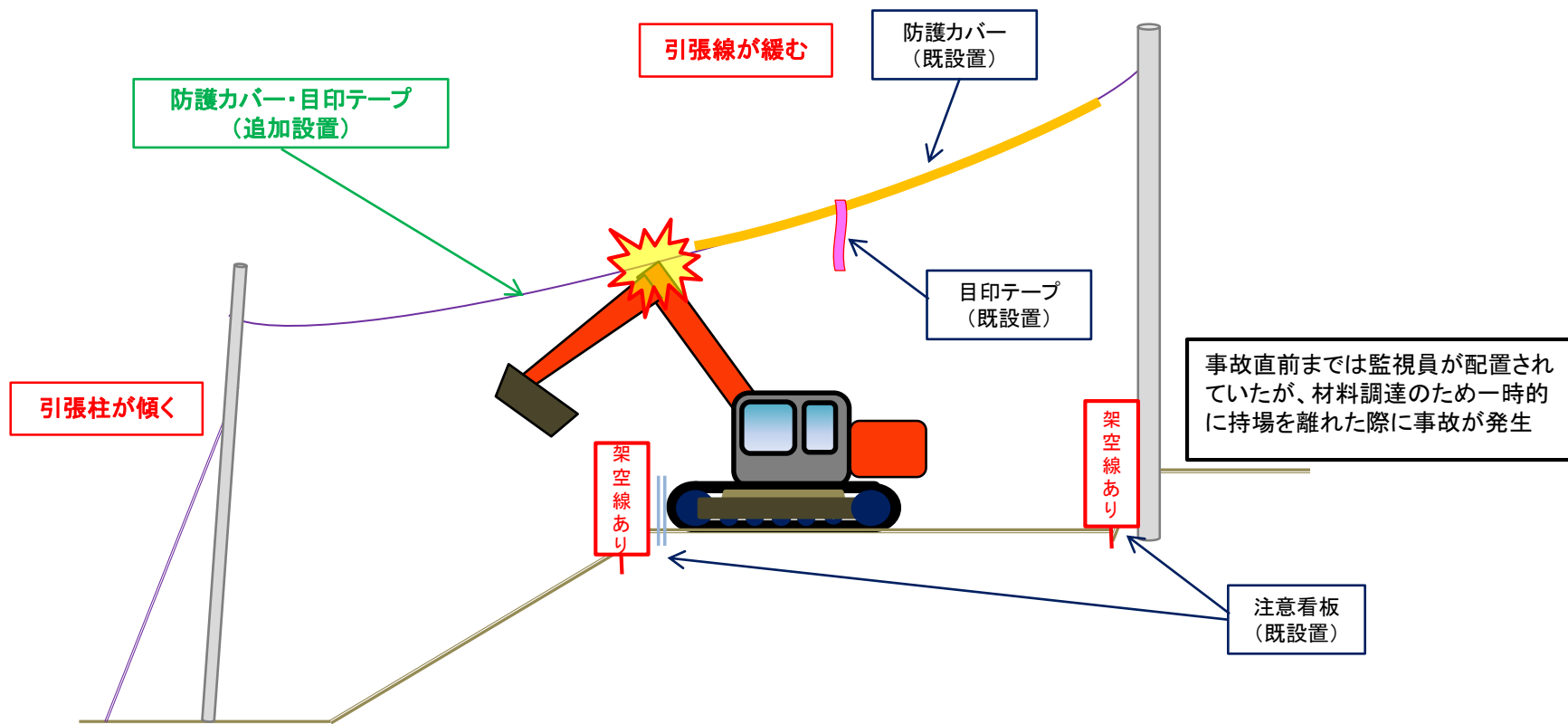
バックホウを用いて法面土工を行っている途中、資材を積んだトラックが現場に到着したため、法面土工を一時中断しようとアームを上げて旋回した際、上空に架空線があるのを見落としたため、中部電力の電柱と引張柱を結ぶ引張線に接触し、引張線が緩むとともに引張柱が傾いた。

【事故原因】

・施工計画書の安全対策には「架空線及び県道付近での重機作業は監視員に笛又は旗を持たせ、重機オペレーターに作業終了時まで確実に合図を送る」と記載されていたが、これが遵守されなかった

【改善対策】

・施工計画を遵守し、架空線付近では監視員がオペレーターに作業が終了するまで確実に合図を送る
・架空線の防護カバーの設置範囲を広げ、目印テープを増やす



【分類】 土工、BH旋回

【被害状況】 中電架空線損傷（引張線緩む・引張柱傾く、送電障害なし）

平成30年度に建設工事で発生した事故事例（架空物損傷事故）

【事故概要】

歩道拡幅部で可変側溝の埋戻し作業の際、投入した埋戻し材が多かったため、バックホウですくいブームを上昇させたところ、歩行者用信号灯器に接触し落下、破損させた。

【事故原因】

- ・支障物近傍での作業であることが周知されていなかった
- ・監視員が埋戻し材の状態に気をとられ、支障物とブームの距離を確認していなかった
- ・オペレーターが監視員の合図を確認せずバックホウを操作した

【改善対策】

- ・作業開始前に留意すべき支障物の有無を確認する
- ・支障物近傍には安全柵、注意標示を設置する
- ・重機を使用する場合、監視員の職務の重要性を確認しあうとともに、オペレーターは監視員が安全を確認してから操作する

落下した歩行者用信号灯器



【分類】 土工、BH旋回

【被害状況】 歩行者用信号灯器 損傷（約3時間半後に仮復旧完了）

令和元年度に建設工事で発生した事件事例（架空物損傷事故）

【事故概要】

歩道拡幅部で可変側溝の埋戻し作業の際、投入した埋戻し材が多かったため、バックホウですくいブームを上昇させたところ、歩行者用信号灯器に接触し落下、破損させた。

【事故原因】

・注意喚起のため、歩行者信号機に黄色のシートを掛けていた。また、朝礼時に、重機使用時の安全確認を徹底していたにもかかわらず、重機運転者が安全確認を怠った。

【改善対策】

- ・事故防止マニュアルのチェックリストを活用し、事前確認を徹底する。
- ・KY 活動で上空施設の位置確認を作業員全員にさせる。
- ・監視員を設置する。

破損した歩行者用信号灯器



【分類】 土工、BH巡回

【被害状況】 歩行者用信号灯器 損傷（工事中につき不使用）

令和2年度に建設工事で発生した事故事例（架空物事故）

【事故概要】

県道の中央分離帯新設工事現場において、バックホウを旋回させた際、アームが隣接している規制区域外上空のトラフィックカウンターに接触し破損させた。

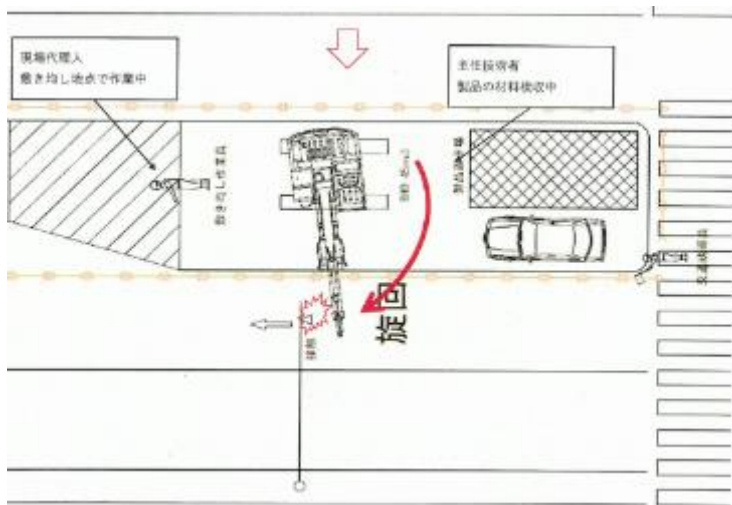
【事故原因】

- ・作業エリア（規制区域）に隣接している架空物への意識がなかった。
- ・バックホウの規格から、作業エリア外へはみ出すこと等へのリスク管理がなされていない。

【改善対策】

- ・緊急の災害防止安全協議会を実施し、今後の対策及び安全意識の徹底を図る。
- ・バックホウを小型化し(0.45→0.11)規制区域内で作業をすることを徹底する。
- ・規制区域内のトラフィックカウンター直下、バックホウ旋回時に目につく箇所に、注意喚起の登旗を設置。

事故状況平面図



事故発生時の状況

